令和8年11月6日

各　位

上場会社名　　栗林商船株式会社
代表者名　　代表取締役社長　　栗林　宏吉
(コード番号　9171　東証スタンダード市場)
問合せ先責任者 専務取締役経営管理本部長　栗林　広行
(TEL. 03－5203－7982)

減損損失の計上、令和9年3月期第2四半期(中間期)累計期間連結業績予想と実績との差異、通期連結業績予想の修正及び投資有価証券売却益(特別利益)の計上見込みに関するお知らせ

1. 減損損失の計上

連結子会社である青函フェリー株式会社の海運事業について、主に燃料油価格高騰による燃料費の増加により営業損益が悪化し、減損の兆候が認められていたことから、減損の認識の要否を検討してきました。今般、現状の事業環境を踏まえて事業計画を見直し、当該事業の固定資産の将来の回収可能性を検討した結果、有形固定資産の一部について22.8億円の減損損失を計上することとしました。

2. 令和9年3月期第2四半期(中間期)累計期間について

(1)令和9年3月期第2四半期(中間期)累計期間(令和8年4月1日～令和8年9月30日)の連結業績予想と実績の差異

(令和9年3月期第2四半期(中間期)累計期間連結業績予想と実績値との差異(令和8年4月1日～令和8年9月30日))

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	27,000	1,000	1,300	800	64.65
今回発表実績値(B)	28,258	834	1,115	△ 1,698	△ 141.55
増 減 額　(B－A)	1,258	△ 165	△ 184	△ 2,498	
増 減 率　(%)	4.7%	△16.6%	△14.2%	－	
(ご参考)前期第2四半期実績(令和8年3月期第2四半期)	26,961	1,405	1,816	1,807	145.08

(2)差異の理由

当第2四半期連結累計期間の業績は、海運事業の国内定期航路においては、航路全体の貨物取扱量が増加したことにより、前回業績予想を上回ったものの、燃料油価格の上昇に燃料油価格調整金への反映が追いつかず営業利益、経常利益は前回業績予想を下回りました。また、親会社株主に帰属する中間純利益についても、前述の要因に加え、上記「1. 減損損失の計上」に記載した青函フェリー株式会社に係る減損損失の計上(22.8億円)により、前回業績予想を下回りました。

3. 令和9年3月期通期(令和8年4月1日～令和9年3月31日)について

(1)令和9年3月期(令和8年4月1日～令和9年3月31日)の連結業績予想の修正

(令和9年3月期通期連結業績予想数値の修正(令和8年4月1日～令和9年3月31日))

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	54,500	2,200	2,600	1,700	137.38
今回発表予想(B)	56,500	2,000	2,400	650	54.17
増 減 額　(B－A)	2,000	△ 200	△ 200	△ 1,050	
増 減 率　(%)	3.7%	△9.1%	△7.7%	△61.8%	
(ご参考)前期実績(令和8年3月期)	53,825	2,081	2,883	3,724	300.96

(2)修正の理由
第3四半期以降は当初予想並みに推移すると見込まれることから、第2四半期の実績と保有する投資有価証券の一部売却による投資有価証券売却益(特別利益)22億円を令和9年3月期決算において計上する見込みであることを踏まえ、通期連結業績予想を修正いたしました。
なお、投資有価証券売却益の計上については、当資料の「4. 投資有価証券売却益(特別利益)の計上見込みに関するお知らせ」をご確認ください。

(注) 上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

4. 投資有価証券売却益(特別利益)の計上見込みに関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、保有する投資有価証券の一部を売却することを決議いたしました。これに伴い、投資有価証券売却益(特別利益)を計上する見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

(1)投資有価証券売却の理由
コーポレートガバナンス・コードに基づく政策保有株式の見直し及び資本効率の向上を図るため。

(2)投資有価証券売却予定の内容
①売却株式 : 当社保有の上場有価証券の一部
②売却予定期間:令和8年11月～令和9年 1 月(予定)
③投資有価証券売却益 :約22億円(見込み)
投資有価証券売却益は、現在の当該有価証券の株価から算出した見込み額であり、今後の株価推移等により変動します。

(3)今後の見通し
投資有価証券売却益につきましては、令和9年3月期決算において、特別利益として計上する見込みです。なお、業績に与える影響については、上記「3.令和9年3月期通期(令和8年4月1日～令和9年3月31日)について」に記載した業績予想に織り込んでおります。他の要因も含めて業績予想の修正が必要となった場合には速やかに開示いたします。